



暑中 お見舞い 申し上げます



子どもたちの何人かが、皆木の枝を見上げています。しきりに鳴くセミを見つけて、教え合っているようです。思わず下履きに変えてかけつくと、セミのとまっている所を教えてくださいますが、…なかなか見つけられません。

私より後から来た子は、すぐに見つけ、また遊びにとんでいってしまいました。こちらの養之のせいはもちろんですが子どもたちはスーパーマンです。子どもたちが興味を示し、心が動いたときは、何と良い目になることでしょう！

人の感覚にはすごい力があって、感覚を通して存在や出来事の様子を受け取るというだけでなく、「私」と存在を出会わせ、深い結びつきを作り、その相手や対象を生かすことができるようなのです。そして感覚を働かせれば働かせるほど、「私」は自分自身がここにいることに確かさを感じることができるのです。

夏の音 夏の声が身体の奥深くに流れ込んできます。夏ならではの色が輝いています。夏の香、味、空気が…漂いながらていきます。感覚の門を開いて それらを吸い込む「私」は、夢見るように その世界と共に生きながら、やがて秋の日に、より確かな自分を見出すようになることでしょう。

子どもたちは 今度は脱けがらをさがし始めました。細い枝先にくっついて いるのを揺すったり、長いほうきで払ったりして集めています。うまく羽化できなかったせみの子にじっと寄り添って見ている子もいます。脱け出せずに力尽きてしまった子を「うえのほうのえだにのせて！」と 届けに行く子もいます。枝の間から青い空、通り抜ける風の音を、射し込む光をもたのしんでいるのかもしれない。

子どもたちが 様々な夏と存分に出会えますように！  
大人も 感覚を開いて いのちのやりとりと自分自身の存在根拠に向き合えますように！

2018年の夏が 今日も明日に向かって進んでいます。未来からの声が祈りのように響いてきます。「今できる限りの思いをこめて目の前のものと出会って下さい。「あなた」の瞬間への世界との関わりが、明日の時を作っているのです」

よき夏を 元気にお過ごし下さい。

園長 升光泰雄